



深喜毛織株式会社

カシミア製品に注力

創業、明治20年。120年にわたる歴史の第一歩は、綿の集積地・堺に近いという地の利を活かした「真田紐」の製造からだ。その後、綿毛布の製造を手がけ製織業界へ参入。昭和28年には、国内初となる紡毛織製品の一貫生産体制を完成させる。毛織製品の中でも、主にカシミアを使用した製品に注力。コート、セーター、マフラー、ストール、ジャケット等、高級素材による多種多様な製品が自慢だ。

同社では、長い歴史において不変の技術と、システム化された最新の技術との共存が上手くはかられている。例えば、「起毛」という「繊維の毛を起こし、柔らかさを出す工程」では、今も天然素材である「アザミのトゲ」を使用している。コストは通常の起毛で使われる針金の数倍。しかし、針金では静電気を発生させ繊維に負荷をかける上、きめ

細かい起毛は困難となる。そのため、最も肝心な仕上げの工程での起毛は、今も必ずアザミを使用しているのだ。

逆に機械化されたのが、「開毛」という「繊維の静電気を取る工程」。自社開発された装置のタッチパネルを操作することで、かつての職人たちの手業と同様の丹念な作業が実現可能となった。

不変の技術と変わりゆく技術。双方に共通しているキーワードは「じっくり」。「後々まで使うことのできる製品は、じっくり時間をかけて作ることが必要。高級品は、「スローなものづくり」から生まれるのです」。4代目となる深井喜一社長は自信をもつて語る。

スローなものづくりを信条に

深喜毛織が誇る高品質の製品は、現場の技術者たちによっても力強く支えられている。同社の技術者は全員、最初の2年間で「紡績」から「織り」、「仕上げ加工」までの全工程を学ぶ。その後も数年ごとに配置転換することで、多くの技術を身につけた「多能工」が育ち、同社の高品質を支えていくのだ。

意識の面でも先進的な取り組みが行われている。同社では、不良品が発生すると、その商品はサンプルとして、社員のみならず来客にも目につく場所に展示される。「一つは、事故をオーブンにし全員で検証するため。さらには、来客にも見せることにより高い予防意識につながるため」だ。「第一に品質を考え、「お客様が安心できるものづくりをして

いる」という自覚を持つことが大切」、深井社長は繰り返し語った。

今後は、製品、会社を通じて、顧客や地域の住民等に、健康と環境を嗜好するライフスタイル（ロハス）を提案していきたいという。

「スローなものづくり」を信条とし、カシミアという自然のぬくもりの中では一番の贅沢品を扱っているからこそです。120年の歴史を持つ企業が見据える先は、壮大な広がりを見せる。

主な事業内容

各種羊毛の他、カシミア、アンゴラ、アルパカ等を使用した高級紳士・婦人毛織物の製造等



深井喜一さん
取締役社長

Company Profile

深喜毛織株式会社

住所 / 〒595-0033
大阪府泉大津市板原町3-7-1

創業 / 明治20年11月

設立 / 昭和22年11月

資本金 / 1億円

従業員 / 100名 (平成21年1月現在)

T E L / 0725-22-1151

F A X / 0725-22-1158

ISO 9001

ISO 14001

関西
19

<http://www.fukaki.co.jp/>

明治、大正、昭和、平成
製織業を牽引し続け120年

